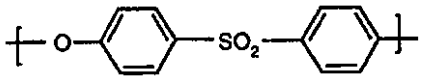
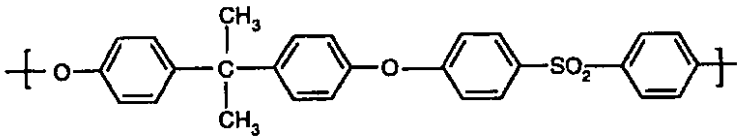
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成24年1月12日(2012.1.12)

【公表番号】特表2011-503310(P2011-503310A)
【公表日】平成23年1月27日(2011.1.27)
【年通号数】公開・登録公報2011-004
【出願番号】特願2010-533554(P2010-533554)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　65/40　　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　 7/02　　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　71/10　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　65/40
Ｃ０８Ｋ　 7/02
Ｃ０８Ｌ　71/10

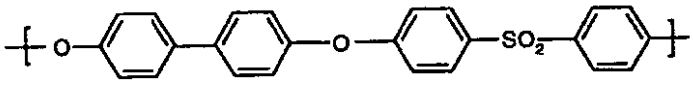
【手続補正書】
【提出日】平成23年11月11日(2011.11.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
モノマー構成要素から出発して、マイクロ波照射を使用しながら重縮合を行い、かつこの際に以下の構造I_1、I_2、及びI_8：
【化１】



(I_1)



(I_2)



(I_8)

のうち少なくとも１つを有する繰り返し単位から成るポリアリールエーテルが製造されることを特徴とする、ポリアリールエーテルの製造方法。
【請求項２】
前記モノマー構成要素を含む反応混合物が、１２０℃～２５０℃の温度で周波数が０．１～１００ＧＨｚの範囲のマイクロ波照射による重縮合反応でもたらされることを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
重縮合の際に溶媒、及び場合により生成水捕捉成分を使用することを特徴とする、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】

重縮合の際に少なくとも２つの異なるモノマー構成要素を使用し、この際に少なくとも１つのジハロゲン－ジアリールスルホン、及び少なくとも１つのジヒドロキシ－ジアリールスルホン、及び／又はビスフェノールＡを使用することを特徴とする、請求項１から３までのいずれか１項に記載の方法。

【請求項５】

請求項１から４までのいずれか１項に記載の方法により製造可能なポリアリールエーテル。

【請求項６】

熱可塑性成形材料の全質量に対して以下の成分：

ａ）モノマー構成要素から出発して、マイクロ波照射を使用しながら重縮合で製造された少なくとも１つのポリアリールエーテル５～９９．８質量％、

ｂ）繊維状、又は粒子状の充填材又は強化材０～約６０質量％、及び

ｃ）さらなる添加剤０．２～約３０質量％、

を含む、熱可塑性成形材料。

【請求項７】

熱可塑性成形材料の全質量に対して以下の成分：

ａ）請求項１から４までのいずれか１項に記載の方法によって製造される、少なくとも１つのポリアリールエーテル２０～９６質量％

ｂ）繊維状、又は粒子状の充填材又は強化材１～約５０質量％、及び

ｃ）さらなる添加剤３～約３０質量％

を含む、請求項６に記載の熱可塑性成形材料。

【請求項８】

請求項６又は７に記載の成形材料を用いて製造される繊維、フィルム、成形体。

【請求項９】

家庭用品、電気構造部材、研究室用装置、医療技術装置、又はこれらの部材から選択される、請求項８に記載の成形体。